

合気道



It's always darkest before dawn.

加盟団体指導者紹介

埼玉県合気道連盟

彩のなでしこ

合気道明心会

埼玉県合気道連盟 Vol. 42

指導者紹介

初夏の風が清々しい季節を迎え、加盟道場の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年来の新型コロナウイルス感染症防止対策として、三度に渡る緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置等に基づく協力要請などが続き、埼玉県合気道連盟活動はもとより、各道場の活動も厳しい状況にあると認識しております。令和三年度も連盟では、社会状況を適宜判断しながら活動をして参ります。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を目指し、引き続き加盟道場のご協力をお願いいたします。

さて、今回の「彩の合気」では、しばらくの間実施が出来ていない行事報告の代わりに、加盟道場指導者のご紹介を企画いたしました。この機会に、各道場の指導者名やお顔を覚えていただき、この冊子が新型コロナウイルス感染症の終息後に道場間の活発な交流のお役に立てれば幸いです。

発行に際し、不慣れなデジタル画像データの手配やコメント作成に多大なるご協力をいただきました各道場の先生方ならびに関係者の方々に心より感謝を申し上げます。

理事長 吉田 忠明

合気道愛和会武道館教室

創設六年



吉田 忠明(72)
合気道歴39年 六段位

一九八二年 合気道桶川愛気会 入会。
二〇一五年 埼玉県立武道館 合気道教室開設。

二〇一五年 合気道愛和会武道館教室代表。
二〇一八年 六段位。
二〇一九年 埼玉県合気道連盟理事長 就任。

● 道場指導方針
礼を大事に、基本を大切に楽しい稽古「お願いします」の中に、互いに尊重し争うこと無く稽古する気持ちをごめします。「有り難うございました」の中に、相手を認め稽古できたことに感謝する心をこめします。入り身、転換による体捌きから産まれる基本技を、互いの習熟度に合わせ繰り返し稽古します。

● コロナ禍での稽古
稽古は再開されましたが、三密にならないためにソーシャルディスタンス、マスク着用直接肌に触れないために手袋使用して、基本の入り身、転換、体捌きを中心に、繰り返し稽古となりました。一月には二度目の緊急事態宣言が出され、武道館教室は再度の活動停止となりました。二〇二〇年度の生徒三二名はさぞや不安な気持ちだろうと思いますが、早く稽古がしたい。先生やみんなと会いたい、手紙やメールを頂き、今は生徒たちとの再会を心待ちにしています。

合気道浦和尾又道場

創設一三年



尾又 富士雄(64)
合気道歴38年 七段位

一九八二年 A&P合気道石垣道場入門、石垣晴夫先生に師事。
一九八六年 勤務会社にて合気道クラブを発足。

二〇〇一年 会社を退職しA&P合気道石垣道場の指導員として従事。
二〇〇八年 合気道浦和尾又道場設立。
二〇一一年 東京都八王子市市合気道連盟副会長就任。

二〇一七年 さいたま市合気道連盟理事長の職責を果たす。(二〇一九年まで)
二〇二一年 本部鏡開き式にて七段位に列せられる。現在、浦和・蕨・南大沢の三か所道場長を務める。

● 道場指導方針
・無理なく安心(怪我をしない、させない)。
・分かりやすく面白い(探求する、工夫する)。
・社会体育(いつからでも、幾つになっても)。

● コロナ禍での稽古
二〇二〇年緊急事態宣言時は活動休止解除後から
①マスク着用
②手指アルコール消毒
③稽古中換気
④次亜塩素酸ナトリウムにて道場内消毒
⑤非接触型体温計にて入場時検温

合気道大宮道場

創設三八年



枝久保 達夫(69)
合気道歴26年 五段位

一九九五年 四三歳の時、合気道大宮道場初心者教室で合気道に出会い不思議さに魅せられ、合気道を始める。

二〇一四年 合気道大宮道場創設者の市塚勇師範が逝去後、会長に就任し当時の副道場長でもあった現合気道桜道場長の藤田潤一先生を師範に迎えて集団指導体制を始め現在に至る。

● 道場指導方針
楽しく合気道。各人のレベルに合わせて稽古を積み重ねて、心身が一体となって動くことをめざします。

● コロナ禍での稽古
第一回の緊急事態宣言解除後六月には、施設の人数制限に従い、入り身転換等の単独動作、受け身、膝行、相手に触れない稽古から再開。その後は本部道場の指針を参考に順次通常稽古へと近づけていきました。なお稽古時は検温、マスク着用、相手を変えする毎の消毒の徹底、居残り稽古は一分以内、飛沫が飛ぶような激しい稽古は控える等を各指導担当者に徹底しています。現在第二回目の緊急事態宣言で稽古休止中。

合気道桶川愛氣会

創設四三年



石川 宏(83)
合気道歴66年 七段位

高校二年生のときに日本総合古武道大会で合気道を初めて見て、感銘を受ける。

一九五八年 合気道本部道場入門。

一九六七年 本部道場より派遣され、米軍朝霞キャンピングで約三年、合気道の指導を担当。

一九七〇年 和光道場の発足時より一〇年ほど和光道場にて指導。

一九七八年 合気道桶川愛氣会発足。

一九八〇年頃から桶川愛氣会にて指導を始め、現在に至る。

一九九五年 七段を許可される。

● 道場指導方針

合気道の基本は崩してあり、崩しは入身であり、入身は受入れてあり和の心である。そして、相手とぶつからず、我を出さず、我が身を修めることが重要である。また、剣の動きを徒手の捌きにつなげることを重視し、稽古のはじめには剣と杖の稽古を行うのが会の特徴。

● コロナ禍での稽古

新型コロナウイルスの影響により二〇二〇年は三月から六月まで稽古を休止、その後は時間短縮、接触する稽古を制限などして稽古を行っています。退会したり、休会したり、稽古を自粛している会員もいます。感染リスクに対して無理をせず、多くの会員が参加できる稽古を行うことが、今は重要と考えています。現在でも、成人部で二五人くらいの会員が毎回稽古に参加しています。

合気道金子道場

創設六年



金子 敏行(78)
合気道歴38年 六段位

一九八二年

川越市にて小林道場畑山憲吾師範のご指導で合気道始める。

一九九〇年 研心会畑山憲吾師範のもとで稽古する傍ら、小林道場小林保雄師範、弘明師範の早朝稽古でもご指導いただき、やがて道場建設に着手。

二〇一五年 一二月道場落成。

二〇一六年 道場開設し指導を始める。

● 道場指導方針

・ 最大の敵は自分自身、己に負けない強い心をつくる。
・ 仲良く稽古する。相手がいるから自分を磨くことができるし、自分がいるから相手も磨くことができる。
・ このようなことを大切にしながら出会った人々が長く合気道を続けていける環境をつくり、良い指導ができるように精進しています。

● コロナ禍での稽古

感染防止のため、二〇二〇年四月、五月の稽古は休み。六月から稽古再開。道場の畳、剣杖などの消毒、手指の消毒、マスク着用、窓からの換気で稽古。二〇二一年一月は緊急事態宣言で再び稽古は休み。二月から剣杖の消毒、手指の消毒、マスク着用、空気清浄機の利用、窓からの換気を行いながら稽古を再開しています。

合気道川越道場

創設四二年



宮本 重喜(74)
合気道歴43年 七段位

一九七八年

勤め先の狭山ヶ丘高校で、武道を生徒達と共にやりたいと思いい、合気道川越道場入門。

一九八〇年 初段。

一九八七年 三段。

一九九五年 六段。

二〇〇二年 全国高等学校合気道連盟の発足に関わり、現在も常任理事。

二〇一三年 七段。

二〇一四年 植芝充央本部道場長代行をお招きし、四五周年記念大会を開催。

二〇二一年

狭山ヶ丘中学・高等学校で中学体育武道の合気道授業と、自分で立ち上げた狭山ヶ丘高校合気道部の指導をしながら、高校と道場の両立で現在に至る。

● 道場指導方針

・ 愉快で思いやりのある稽古をする。
・ 集中力・品格の向上を目指す。
・ 健全な心と身体づくりを目指す。

● コロナ禍での稽古

コロナ禍で二ヶ月位休業に近い状態でありましたが、本部道場の再開を受け、始めは消毒・マスクの着用のもとで剣・杖を基本に稽古を行いました。徐々に相手に触らないエア合気道に移行しています。最近では三密、消毒を徹底し、相対での合気道で元氣良く活動しています。

合気道北本道場

創設三五年



小林 幹雄(68)
合気道歴51年 七段位

一九六九年

合気道小林道場入門。植芝盛平翁に直接薫陶を受けた小林保雄先生に師事。

一九七五年 小林道場の支部である東村山錬心館道場で二年ほど指導担当。

一九八五年 田無道場で二年ほど指導担当。

一九八六年 埼玉県北本市に北本道場を開設。

二〇一〇年 小林道場で専門家となる。

二〇一一年 上板橋道場開設、指導責任者。

二〇一五年 九年间で中国とマカオで指導。

二〇一五年 千リ・アルゼンチン・ウルグアイで指導。

● 道場指導方針

“一人でも多くの人に合気道の素晴らしさを伝えていく”を心にとめて楽しく怪我のないよう指導しております。
少年部は発育にあわせて、相手を思いやる心を育てることを目的とし、一般の部はそれぞれ目的に応じた指導に努めています。

● コロナ禍での稽古

令和二年の緊急事態宣言により、四、五月の間は関連道場を全て閉鎖しました。六月から感染防止対策に万全を期し、稽古を再開しましたが、少年部、一般の部とも今なお休会の会員が二割ほどいます。稽古においては左記八項目を徹底しています。
① 入場時の検温 ② 入退場の際の手の消毒 ③ マスク使用 ④ 更衣室の三密回避 ⑤ 稽古時間の短縮 ⑥ 使用備品(木刀・掃除道具など)の消毒 ⑦ 道場内換気 ⑧ 道場清掃の徹底

合気道熊野塾彩新道場

創設二四年



田沼 正樹(57)
合気道歴35年 六段位

一九八六年 学生時代に群馬県高崎市の合気道山徳道場入門。
一九九五年 和歌山県新宮市の、合気道熊野塾道場にて引土道雄先生に師事し、現在も熊野塾道場の高段者から教えを受ける。

●道場指導方針

今は亡き引土道雄先生や熊野塾道場の高段者から習ったことを基に稽古しており、引土道雄先生が植芝大先生から習った合気道、晩年の大先生が最後に行きついた境地というものを目指して稽古しております。

●コロナ禍での稽古

飛沫感染予防として道場内で終始マスクを着用し、稽古前後に手指消毒を行い、一月一二日から平日夜の稽古終了が二〇時になるよう時間を前倒しました。ゆっくりペースから徐々に速くしていくことで道場生たちは全員マスクをしていても以前と同じように動けるようになり、真夏の稽古も乗り切りました。現在マスク着用によって出来ない稽古は無いので、今後もコロナ禍が完全に収まるまでこの方法を続けます。

合気道研心会狭山台道場

創設二四年



畑山 憲吾(73)
合気道歴51年 八段位

一九六九年 朝倉長太郎師範の指導のもと、秋田県支部にて合気道をはじめ。
一九七〇年 秋田大学を卒業、東芝に就職、川崎本社での新生活がはじまる。

●道場指導方針

一九七〇年 西ドイツの浅井勝昭氏のもとで助手として指導を行う。
一九七〇年 西ドイツより帰国。
一九七七年 「合気道研心会」の中心道場である、狭山台道場を設立、現在に至る。
二〇〇〇年 合気道への長年の功績が認められ七段に昇段。
二〇二〇年 合気道への長年の功績が認められ八段に昇段。

●コロナ禍での稽古

合気道の稽古を通して、心身とともに健康になり、充実した日常生活を送ることを目標にしています。
● コロナ禍での稽古
去年の緊急事態宣言解除後六月より稽古を再開しました。再開直後は休会している会員もいましたが、現在はほぼ全員が稽古を再開しており、新しい入会者もいます。稽古は全員マスクを着用し、道場の換気をこまめに行いながら、これまでの稽古より対人接触を減らして行っております。

合気道桜道場

創設一四年



藤田 潤一(72)
合気道歴53年 七段位

一九六八年 本部の直轄道場で植芝吉祥丸前道主が直接指導に当たられていた新橋道場に入会、その後川口合気会に入会。
一九七二年 浦和合気会に入会。
一九八一年 当時浦和で共に稽古していた市塚さんの誘いを受け大宮合気道同好会(現大宮道場)でも活動を始める。
二〇〇七年 合気道桜道場を設立。
二〇一三年 七段位を允可され、現在に至る。

●道場指導方針

● コロナ禍での稽古
現在大宮道場と桜道場の指導を担当していますが、参加者は全員マスク着用です。稽古前に参加者は体温や健康状態の確認をチェックシートに記入してから全員で畳を消毒します。次に手指消毒をして準備運動。準備運動終了後も手指消毒を行い稽古に入ります。稽古再開後はヨガや剣・杖の稽古で相手に触れない稽古から始めましたが、段階を踏み現在はマスク着用でコロナ前と変わらぬ内容になりました。

●道場指導方針

各人が静かな気持ちで相手をとらえ、感情に左右されることなく、動きの中での変化にも動ずることなく、柔らかい体の使いで互いに良い稽古相手となり、生き生きと楽しい稽古ができるようになることを目指しています。
● コロナ禍での稽古
現在大宮道場と桜道場の指導を担当していますが、参加者は全員マスク着用です。稽古前に参加者は体温や健康状態の確認をチェクシートに記入してから全員で畳を消毒します。次に手指消毒をして準備運動。準備運動終了後も手指消毒を行い稽古に入ります。稽古再開後はヨガや剣・杖の稽古で相手に触れない稽古から始めましたが、段階を踏み現在はマスク着用でコロナ前と変わらぬ内容になりました。

合気道猿田彦道場

創設一九年



渡邊 曙光(72)
合気道歴40年 七段位

一九七七年 パリ合気道会入門。翌年「KINOMICHI」として独立。(野呂昌道師範)
一九七九年 氣の研究会入門。(藤平光一師範)
一九八〇年 世田谷合気会入門。翌年「天道流」として独立。(清水健二師範)
一九八六年 養神館入門。(塩田剛三師範)
一九九〇年 蕨合気会入門。(西尾昭二師範)
二〇〇二年 合気道猿田彦道場をインドネシアに開設。
二〇〇七年 合気道猿田彦本部道場をさいたま市に開設、現在に至る。

●道場指導方針

● コロナ禍での稽古
二〇二〇年は三月六月は道場を閉鎖しました。以降はマスク、検温、アルコール消毒を徹底しています。稽古法としては、極力接触過多にならないように工夫を重ねています。二〇二一年は政府の方針に従い、一月以降より道場を再開し、安全を図ると共にイメージトレーニングを推奨しています。

●道場指導方針

人々に内在しているそれぞれの可能性を、合気道を通して発掘し、現世で活用できるような水際まで誘導する。ただし泳ぐのは個々の意思と覚悟によるものとする。決まり文句は「怪我をしないさせない」「恥と汗は大いにかくべし」。
● コロナ禍での稽古
二〇二〇年は三月六月は道場を閉鎖しました。以降はマスク、検温、アルコール消毒を徹底しています。稽古法としては、極力接触過多にならないように工夫を重ねています。二〇二一年は政府の方針に従い、一月以降より道場を再開し、安全を図ると共にイメージトレーニングを推奨しています。

合気道修徳会

創設八年



渡辺 浩(74)
合気道歴52年 六段位

一九六九年 合気道川越道場に入門。島田

五郎先生の指導を受ける。

一九九八年

二〇一〇年 川島町合気道同好会の大谷一

枝 師範の招聘を受け、同会の指導者になる。

二〇一三年

大谷師範ご逝去後に比企郡

吉見町の町立武道館を拠点に

二〇一四年

合気道修徳会の指導の傍ら、

合気道桶川愛氣会に入門。

自己研鑽のため石川宏師範の

指導を受け、現在に至る。

● 道場指導方針

・合気道は楽しく行う。

・稽古で怪我をさせない。

● コロナ禍での稽古

コロナの緊急事態宣言発出により、二〇二〇年三月から一〇月迄の間、武道館が使用中止となり稽古は全休となりました。

一月より武道館が使用できるようになり、

感染対策として参加者の検温、手指のアルコール消毒、マスク、手袋着用で接触の少ない技を選んで稽古していました。一般部

は杖を使った呼吸投げを取り入れて、接触機会を少なくした稽古をしていました。

二〇二一年一月より再び武道館の仕様がで

きなくなり、稽古を休止しています。

合気道修練道場自然館

創設三二年



吾妻 正義(49)
合気道歴32年 六段位

一九八九年 父(故吾妻久朝七段)による道

場開設と同時に稽古を始める。

以降、毎年防衛省夏季合宿訓

練に参加し磯山博先生の指導

を仰ぐ。

一九九六年

以降、一〇数回磯山博先生の

海外セミナーに随行。

一九九九年

二代目館長に就任。

二〇一三年

本部道場鏡開き式において

磯山先生の推薦により、代表

で道主より六段位を拝受。

● 道場指導方針

一般の部では「自然に無理なく争わず」を

モットーに、常に基本を重視し我流に陥る

ことのないよう注意し指導している。少年部

では、他への思いやりの気持ちが少しでも

養われるよう「①伸び伸びと気を出しましょう

②相手の身になって考えましょう ③感謝

の気持ちを大切にしましょう」をモットー

に指導している。

● コロナ禍での稽古

マスク着用、手指アルコール消毒、検温、

定期的な換気等、基本的な感染予防対策を

施した上で稽古を実施している。

二〇二〇年の緊急事態宣言解除以降は、非

接触を原則に武器を使った稽古のみを実施

し、剣杖の基本的な操法、組み杖、組み太刀、

武器取りなどを中心に行う。二〇二一年一

月以降は、感染状況を考慮しながら、体術

稽古と武器稽古の両方を実施している。

合気道神明塾

創設四四年



佐々木 望鳳馨(50)
合気道歴43年 六段位

一九七七年 故佐々木将人師範創設の埼玉

県上福岡市(現ふじみ野市)

神明塾の前身である若草会館

少年部で合気道が始める。

初段位許可される。

一九八五年

三重県伊勢市 合気道神武館

にて故岩垣茂則館長に師事。

一九八八年

皇學館大学合気道部入部 故市

橋紀彦師範 神武館 里中香司

師範に師事。

一九九四年

合気道神明塾の道場が完成

し、故佐々木将人師範に師事

少年部指導。

一九九八年

四段位許可される。

二〇〇〇年

合気道神明塾長に就任。

二〇〇二年

五段位許可される。

二〇〇九年

六段位許可され現在に至る。

● 道場指導方針

合気道の技はもろんのこと、基本動作受け

身礼儀作法の徹底。百人一首や格言の暗誦

などを通じて自立、協調性、人間形成を育む

ことを目的とした方針で行っています。

● コロナ禍での稽古

非常事態宣言中の道場の完全閉鎖。道場内入口

に消毒液を設置。出入の際の消毒の徹底。

道場内の窓の開閉による換気・消毒。

稽古中に換気扇、サーキュレーター、扇風

機作動しての換気。受講者の二〇分ごとに

休憩や水分補給と空気の入替え等を行っ

ています。

合気道所沢道場

創設四九年



小林 弘明(55)
合気道歴52年 七段位

一九六九年 父・小林保雄総師範の元で三歳

より合気道が始める。

一九八四年

高校時代より海外での合気道

交流を始め、大学卒業後、青年

海外協力隊の合気道隊員として

二年半インドネシアで指導。

その後、短期緊急派遣隊員と

してポーランドで半年間指導

した。英語・インドネシア語・

中国語を話し、国内のみならず

定期的に海外指導にも赴く

などして現在に至る。

● 道場指導方針

小林道場では「一人でも多くの人に合気道」

をモットーに、言葉での説明よりも、実際に

動いて指導するようにしています。子供クラス

では、技はもろん、礼儀・挨拶・基礎体力

などに重点をおいて指導しています。

● コロナ禍での稽古

二〇二〇年三月末から六月初めまで道場を

閉鎖しました。現在稽古時間は基本一時間

とし、入場時の消毒、稽古時のマスク着用、

道場の換気など、会員の皆様に協力して

頂きながら稽古しています。少しでも気持ち

を盛り上げるため、世界各国の傘下道場に

演武動画を募集し「合気道

小林道場演武会プロジェクト

二〇二〇」を企画しました。

是非、ご覧下さい！



合気道堀越道場

創設一九九年



堀越 春芳(75)
合気道歴55年 八段位

一九六五年 法政大学合気道部入部。
一九八二年 合気道小林道場専門指導員となり、埼玉県春日部市、越谷市、幸手市、宮代町、加須市等にて指導を行う。

二〇〇二年 春日部市に合気道堀越道場を開設し、現在に至る。

二〇二〇年 道主推薦により八段位に昇段。過去台湾をはじめ、アメリカ・カナダ・ドイツ・ロシア・イラン・ブラジル・トルコ・韓国・北欧等にて指導。現在も年に数回海外指導を行っている。

●道場指導方針

青少年クラスの充実、専門道場としての質の高い技術の提供、海外への合気道の普及を道場方針としております。

●コロナ禍での稽古

二〇二〇年は約二か月の中断を終え、六月より剣・杖を中心に非接触の稽古を再開。八月頃より徐々に接触を伴う内容とし、現在はマスク着用等の対策を取りながら、ほぼ通常通りの稽古を行っております。

合気道増田道場

創設二九年



増田 学(58)
合気道歴52年 七段位

一九六九年 合気道小林道場 小林保雄師範に七歳で入門。大学生時代より小林道場子供クラス等を指導補佐。

一九八九年 小林道場の内弟子となり専門家を目指す。二年半の内弟子生活をj経てドイツ・浅井勝昭師範の内弟子として三か月ドイツで過ごし、海外指導の経験を積む。

一九九二年 越谷市に小林道場の支部として、合気道増田道場の前身となる合気道南越谷道場を開設、現在に至る。

●道場指導方針

「一人でも多くの人に合気道を」をモットーに楽しく、厳しく合気道の普及、研鑽に励んでいます。

●コロナ禍での稽古

現在のコロナ禍では換気、消毒、手洗い、マスクの着用等を実行し稽古を続けています。稽古内容は剣・杖の稽古を中心とし、技術を少なめにしています。また、緊急事態宣言中は夜間の稽古は午後七時から八時までの一時間とし、稽古後は速やかに解散する事としています。

合気道明心会

創設四五年



亀井 格一(82)
合気道歴60年 八段位

一九六一年 多田宏師範の自由が丘道場に入門。本部道場師範の多田宏先生(九段)の下で修業を積む。

一九七六年 池田昌富師範とともに東京都板橋区の田仲道場で合気道明心会を発足。

一九九八年 入間市に稽古の拠点を移し明心会として指導を再開、現在に至る。

一九九五年〜二〇〇七年 黎明道場志木合気会の師範としても一三年間指導にあたる。

●道場指導方針

- ・ 礼節を重んじる。
- ・ 呼吸法、とり舟を大切にす。
- ・ 稽古では相手に敬意を払い、とらわれず、感じ取り、丁寧に稽古する。
- ・ 実践合気道を目指し、人格形成への道を歩む。

●コロナ禍での稽古

一度目の緊急事態宣言では、全ての稽古を中止しました。二度目の緊急事態宣言では、近隣の使用できる場所を探して少人数での稽古を実施しております。稽古時は、換気、消毒、検温、マスクの着用等を実行し休憩を多めに取っています。稽古内容ですが、常にマスク着用での稽古を行っていますので、熱中症対策も考えて、夏場は剣・杖を中心に単独での体捌や受け身が中心でした。最近では相対稽古を実施しています。

合気道黎明道場志木合気会

創設三三年



三輪 明(72)
合気道歴45年 七段位

一九七五年 名古屋にて合気道を始め。一九七六年 大阪武育センター(小林裕和師範)へ入会、同系列の合気道洗心館(中西政春師範)でも稽古を継続。

一九九〇年 合気道黎明道場 志木合気会(樋浦直久師範)へ入会。

一九九六年 初代樋浦師範の後継として二代目代表に就任、現在に至る。

二〇〇七年までは亀井格一師範にご指導を仰ぐ。

●道場指導方針

- ・ 会員の親睦と融和、地域社会の体育振興と体力向上を目指す。
- ・ 少年部は①礼儀正しく②楽しく又厳しく
- ・ ③怪我をしない・させない
- ・ 一般部は呼吸法・気の錬磨を基礎に生命力を高め、稽古を通して生活の中に活かす。

●コロナ禍での稽古

感染防止の為、令和二年三〜六月志木市民体育館が臨時休館で稽古休止。七月体育館の利用ガイド(マスク着用、手指の消毒、検温と体調確認等)に沿って稽古を再開。当初は単独動作のみで呼吸法・足さばき・剣杖稽古等。八月から相対稽古も認められ通常稽古に戻る。参加人数は従来の約半分。九月には市の認可で市民合気道大会を開催。緊急事態宣言発令後も体育館は稼働時間短縮をされたが、稽古は利用ガイドに基づき従来通り実施。

合気道と光道場

創設五〇年



川路 昌治(73)
合気道歴52年 七段位

一九六九年 本部道場に入会。
一九七九年 合気道と光道場の師範を引き継ぐ。桶川愛気会の石川和宏師範より「呼吸力」を、杉並合気会の加藤弘師範より武術的「術」を、合気道神明塾の佐々木将人師範より「道」を、また、植芝吉祥丸道主より稽古の姿勢を学ぶ。

二〇〇七年 合気道七段位。

●道場指導方針

「稽古は真剣と思え、実践は木剣だと思え」の姿勢を実践する為、稽古は厳しく、受けはしっかりと握り、しっかりと打込む。取りは呼吸力を鍛え、しっかりと技をかける。一瞬一瞬に力を尽くし、今という時を大切にする。

●コロナ禍での稽古

二〇二〇年、緊急事態宣言が解除された六月より稽古を再開しております。再開当初より、本部のガイドラインに従い、少年部、青年部ともに、非接触稽古より始め、木剣の単独による素振りから、剣、杖の合わせ、太刀取、杖取へと段階的に相対稽古へと進みました。現在、マスク着用、消毒を適宜し、体術の稽古をしております。二回目の緊急事態宣言前までは、週三回稽古できていましたが、現在は稽古場所が確保できず週一回となっています。

上尾合気会

創設三二年



黒須 信弥(78)
合気道歴58年 七段位

一九六三年 合気道を志し合気道を学びつつ、他武道（総合武道、武田流合気柔術、拳法、居合道「田宮流」、神道夢想流杖道等）を合気道に役立てるべく学ぶ。

一九八九年

西尾先生指導のもと「上尾合気会」を設立し指導、普及にあたる。その後、上尾市合気道連盟に参画し、現在は会長として上尾市の合気道普及のため、連盟の合気道教室や小学校の授業での指導にあたりしております。

●道場指導方針

本会は開祖の「合気道の精神」を遵守し、西尾昭二先生の許す心は人間の器をきめるという武道「合気道」を通して体を鍛錬して、人間形成を図る道場として、共に研鑽しております。

●コロナ禍での稽古

コロナ禍では、体育館等の指導の下、マスクを着用し、人数制限で三密を避けて、基本を中心に木刀、杖を用いて稽古をしております。

入間幸武館道場

創設四八年



関戸 章弘(74)
合気道歴57年 八段位

一九六四年 駒沢大学で合気道を始める。在学時代は合気道部の主将。

一九七三年

入間幸武館道場に合気道部創設。当初より師範として指導し、現在に至る。

一九九七年

合気道七段を許可される。

二〇〇九年

財団法人剣道連盟杖道三段

二〇一七年

合気道八段を許可される。現在の役職は入間市合気道連盟会長、入間市武道連絡会副会長、埼玉県合気道連盟常任理事。

●道場指導方針

和の武道を目指しています。
・ 謙虚な気持ちで初心を忘れず、優秀を競わず、自らの求道心と感謝の念を忘れない。
・ 心身を鍛錬し、人を作ることを目的とする。
・ 自己研鑽に日常生活に、合気道の心を大いに活かす精進する。

●コロナ禍での稽古

稽古においては、市および合気会の感染拡大予防ガイドラインに沿い、次の点を遵守しています。
・ 手指消毒と見学者を含めた検温とその記録を徹底する。
・ 稽古中もマスク着用、更衣室や道場内での三密を避け、道場は常に換気する。
・ 大声は出さない、呼吸が荒くならない動きを心掛ける。
・ 休憩および稽古終了時は、手を洗い手指消毒する前に顔は触らない。
・ 技は道着の袖や肩取りを主とし、直接接合の場合は手袋を着用する。

浦和合気会

創設五〇年



林 昭男(73)
合気道歴52年 七段位

一九六九年 荒川合気会（故佐藤益弘師範）において合気道を始める。

一九七一年

浦和合気会が創設。

一九七三年

日本と自分を見つめるためイギリスに渡航。千葉和雄師範宅での内弟子生活を始める。自身の合気道の礎となる経験を積む。

一九七九年

浦和合気会（故渡辺信之師範）に入会。

一九八二年

合気道を行う上で最も影響された遠藤征四郎師範の指導を受けはじめ、現在に至る。

●道場指導方針

合気道を通じ会員の親睦を図ると共に、開祖の教えを守り、生命の尊さ、人間の尊厳を知り、健全なる精神や肉体を養い、かつ他人を思いやる心を持って郷土の興隆と合気道の普及発展に寄与することを目指す。

●コロナ禍での稽古

杖や剣を用いた稽古の時間を取りました。それにより体の捌き、気の流れ、呼吸法の意義なども再確認することが出来ました。状況が変わっても如何に自然に動けるか、どのように相手と合気ができるか、注意する視点と意義を多く感じた期間となりました。マスク着用、取り技の後は手の消毒を行い、稽古後の手洗いやうがい等の徹底を要請し、努めています。

A & P合気道石垣道場

創設四九年



石垣 晴夫(74)
合気道歴55年 八段位

一九六六年 埼玉大学で合気道を始める。
第一期合気道部副主将。小林保雄師範に師事。

一九七二年 長野県松本支部道場を開設。
信州大学合気道部を設立し師範に就任。長野県合気道連盟を設立し会長に就任。

一九八二年 北浦和道場を開設。

一九九六年 北浦和本部道場を開設。

二〇〇九年 埼玉大学合気道部の師範に就任。

二〇二〇年 八段に昇段。

現在、一都五県で二〇カ所の道場を指導。

●道場指導方針

「合わせ」「外し」「ずらし」「意識の仕方」等で、ぶつからずに相手を崩すことを基本とした稽古をします。

●コロナ禍での稽古

感染防止のため、二〇二〇年三月から三カ月休館しました。休館中は合気道を忘れないうような準備体操の動画をホームページに掲載しました。道場での感染防止対策を徹底して稽古を再開し、相手との接触の少ない武器技を三ヶ月行いました。その後、技術も徐々に始め、一ヶ月からは通常稽古をしています。コロナ感染を危惧して道場へ来られない道場生へ情報を伝えるべく、フェイスブックやYouTubeに稽古している技を掲載しています。

A & P合気道「空の会」

創設一四年



阿部 昌彦(66)
合気道歴28年 六段位

三九歳で合気道に巡り合い、のめり込み、今年で二八年目になります。

一九六六年 初段

一九九九年 二段

二〇〇七年 有志による合気道同好会をはじめ、同年石垣師範の許可を頂きA & P合気道「空の会」を発足、現在に至る。

二〇一一年 五段

二〇一七年 六段

●道場指導方針

勝敗に拘らない合気道は実に素晴らしい理念があります。相手とぶつからないということ、相手と一体となるということ、それらを技術と剣・杖等の動きで体に沁み込ませていく。そして日常の精神世界へ広げていくこと。

●コロナ禍での稽古

昨年は緊急事態宣言で三か月ほど全く稽古ができませんでした。今年も宣言発出で使用できない場所も出てきました。昨年より、コロナ禍での稽古はマスク着用で、剣・杖による非接触稽古を中心に「体の変化」の追求を行っております。まず剣・杖を自分の体の一部として意識し、操作し、それを自然のものとし、合わせから入り身、転換、そして中心線をしっかり合わせた変化。日常の立ち居振る舞いに通底するものとして稽古しております。

A & P合気道田口道場

創設一七年



田口 輝義(74)
合気道歴55年 七段位

一九六六年 埼玉大学経済学部入学。合気道部第二期主将。

二〇〇四年 草加市栄町に道場開設。

二〇〇六年 足立区竹ノ塚に道場開設。

二〇一〇年 公益財団法人合気会より七段位授与。

二〇一二年 東大宮に道場開設。

●道場指導方針

基本理念は、楽しく、明るく、元氣よく。特に稽古前の準備体操には、充分時間を取って、若い人からシニア迄元氣な体力作りがモットーです。

●コロナ禍での稽古

全員マスク着用、稽古前および後の手洗い・消毒の徹底、稽古後の道場の消毒、剣・杖等用具の消毒、また相対稽古は従来より時間を短くして、通常稽古を行っています。

A & P合気道大関道場

創設一九年



大関 正美(54)
合気道歴35年 六段位

一九八五年 埼玉大学にて合気道を始め、小林保雄先生、石垣晴夫先生の教えを受ける。

一九九三年 大阪合気会で稽古。同年、会社に合気道クラブ創設。

一九九五年 英国ダーラム合気会で稽古を積む。

一九九六年 帰国後、小林道場、石垣道場で稽古。

二〇〇二年 石垣道場の内弟子。

二〇〇七年 A & P合気道大関道場開設。

二〇〇九年 埼玉大学合気道部 監督に就任。

二〇一三年 六段位。

●道場指導方針

準備体操 基本運動、受け身をしっかりと行い、皆さんがケガなく楽しく稽古できるように心がけています。そして子供や女性、シニアの方にも安心して稽古できるように、一人一人の上達に合わせて指導しています。

●コロナ禍での稽古

大人・子供クラス共に昨年の三月～五月は休んでいましたが、六月からは通常通りの稽古を行っています。審査は日程がズレましたが無事行えました。他の行事は全て中止です。
稽古前の検温、入退場時の手指消毒、マスク着用で稽古を行います。剣杖等、相手との距離を取れる稽古を多くしています。稽古後は道場全体と使用した剣杖の消毒を行います。

大成合気道会

創設三四年



関根 章弘(76)
合気道歴58年 七段位

一九六三年 法政大学合気道部に入部。以来、
四〇年以上本部道場師範故
有川定輝先生に師事。
一九八七年 大成合気道会を創設。
二〇〇二年 七段を許可される。
二〇〇三年 法政大学合気道部師範となり、
現在に至る。

*歴代の道主に免状をいただいている。
初段〜参段までは、植芝盛平先生、参段〜
六段までは、植芝吉祥丸先生、七段は、
植芝守央先生。

●道場指導方針

合気道とは己に与えられた己の使命に打ち
勝つ道(開祖の言葉)であり、稽古は楽しく
なければならぬというのが私の信条です。
辛い稽古もお互いを思いやりながら基本を
忠実に繰り返しているうちに必ず楽しくなる
ということです。

●コロナ禍での稽古

緊急事態宣言の真つただ中であり、現在
すべての稽古を休止しております。普段の
稽古は大成中学校の武道場をお借りして
行っておりますが、コロナ禍で学校施設の
開放が困難となり再開の見通しが立ちません。
一回目の緊急事態宣言の解除後に杖・剣を
中心とした稽古を再開したのですが、また
もや緊急事態宣言が发出され、当面は会員
各自の単独稽古とせざるを得ない状況です。

大宮合気道倶楽部

創設三〇年



花香 邦夫(68)
合気道歴42年 七段位

一九七九年 自由が丘道場入門、その後、
本部道場、市川里見八頭会で
稽古。

一九九一年 大宮武道館開館と同時に多田
塾傘下道場として大宮合気道
倶楽部稽古開始。

本部道場師範多田宏先生の教えの下、瞑想、禊
としての合気道を目指し稽古し、現在に至る。

●道場指導方針

本会では毎回、稽古始めに、呼吸法、気の
練磨、天の鳥船運動、四方切り、体裁き、
五つの動作を行っています。これは、合気
道の技に生命力を与える重要なものだと
思っています。基本技を中心に稽古してい
ます。

●コロナ禍での稽古

二〇二〇年、四月の緊急事態宣言により、
会員が減少しました。六月八月は杖、木刀、
体裁き中心の稽古でしたが、九月以降は
平常の体術中心の稽古に戻っていました。
稽古前、後、必ずアルコールで手首を消毒、
稽古中、マスク着用を守り感染者を出さない
ように注意しています。二〇二一年一月
からは二回目の緊急事態宣言のため武道館
が休館となり、現在の稽古休止中です。

大宮西部合気道会

創設三五年



佐藤 繁(74)
合気道歴40年 六段位

一九六四年 法政大学合気道部にて合気道
を始め、有川定輝先生に教え
を受ける。

一九七五年 小林道場、堀越道場にて稽古。
一九八六年 大宮西部合気道会開設。
二〇一一年 六段。

●道場指導方針

・ 礼儀は正しく守り、指導者の教えには
忠実に従う。
・ 稽古は真剣に、素直に怪我や過ちの無い
ように心がける。
・ 道場内ではお互いの「和」を尊び、豊か
に明るく稽古に励む。
・ 相手に敬意を払い、囚われず、感じ取り、
丁寧に稽古する。

●コロナ禍での稽古

二〇二〇年一回目の緊急事態宣言により利用
施設が休館のため稽古を中止しました。二度目
の緊急事態宣言で再度稽古を中止しており
ます。二〇二〇年六月から一二月までの
稽古では、コロナ対策を以下の通り実施し
ました。・自宅で体温測定後、三七、五度以下
で入館。・マスク着用。・靴袋およびスリッパ
は持参。・着替えは自宅で行う。・間隔を取って
行動する。・熱中症の予防に水分を補給。
・手洗いおよび消毒の励行。
稽古方法は本部道場の指導要領に基づき
実施しました。

久喜合気道同好会

創設三八年



川合 英統(70)
合気道歴44年 六段位

一九六八年 青山学院合気道部。
一九七六年 浦和合気会入会。
一九八一年 初段。
一九八三年 大宮道場市塚勇師範指導下、
久喜合気道同好会発足。
一九八八年 久喜合気道同好会会長。
二〇〇三年 山田恒夫師範の後を受け、
東京理科大学久喜キャンパス
合気道部の早朝稽古開始。

二〇〇七年 六段位。
二〇一五年 久喜合気道同好会審査長。
二〇二〇年 久喜合気道同好会会長を退任
し顧問。

●道場指導方針

型に捉われず多くの技を学ぶため複数の
本部師範を招いて講習会を行っています。
また体力に合わせた受け身をしっかりと行う
事で体力作りやバランス感覚を養い近年、
年齢層が上がっている会員に長く継続出来る
身体作りを行っています。

●コロナ禍での稽古

稽古状況は通常週三回の稽古を行っており
ましたが緊急事態宣言発令によって週一回
になっていきます。稽古方法は利用施設の
ガイドラインに沿って行っております。
マスク着用は厳守。稽古の前後や技の切り
替え時、マスクに触れた際は手指の消毒を
行っております。また稽古時間の三分の一
は準備運動と体捌きを行い人との接触を抑
えています。

川島町合気道同好会

創設一七年



富岡 太郎(63)
合気道歴30年 六段位

一九九〇年 鳥取県米子合気会入門（中川進師範）。

一九九二年 東京転勤で本部道場合気道学校入校。

一九九四年 初段。

一九九六年 武段（合気道学校）以降、大澤勇人師範のご指導を受ける。

二〇〇二年 参段（以降は防衛省／大澤師範）。

二〇〇五年 川島町同好会で稽古開始、故大谷師範からご指導を受ける。

二〇〇六年 四段。

二〇一三年 川島町同好会で稽古指導を担当。

二〇一四年 五段。

二〇二〇年 六段。

●道場指導方針
道場創始者の故大谷一枝師範の教えを基に、「継続は力なり」を信条として、一步一步前進していくことを目標に、和気あいあいと日常生活に活かせる合気道を目指して稽古しています。

●コロナ禍での稽古
指導者が障害者福祉事業所で施設長をしている関係上、勤務先でのクラスター予防のため、現在はやむなく稽古を控えています。今後ワクチン接種が進み、コロナが落ち着けば、マスクを着用しながらでも稽古を再開したいと考えています。

熊谷合気研究会

創設一九年



古木 得生(72)
合気道歴53年 六段位

一九六八年 一九歳の時、福岡で友人に誘われて合気道を始める。

一九七一年 就職のため埼玉へ。行田、熊谷近郊に合気道の道場がなく約一〇年間空白。

一九八〇年 合気会厳武館（吉田政雄先生）に入門。

二〇〇二年 熊谷合気研究会を開設する。

二〇〇六年 合気道川越道場 島田五郎先生に親交を戴く。

二〇〇七年 行田教室と羽生教室を開設する。

二〇一二年 親子合気道教室開設。

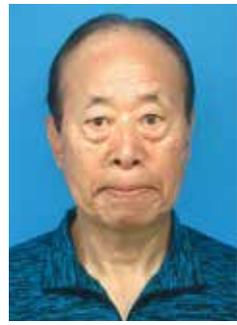
二〇一五年 六段允可され、現在に至る。

●道場指導方針
・痛めない稽古／稽古は、強引な力で技をかけない。関節技は関節の仕組みを理解し制することを稽古する。
・楽しい稽古／各自習得の目標を持って稽古する。常に「目標を設定する、目標を達成する」を繰り返すことで稽古を楽しむ。段級の上下を厭わず相手のアドバイスは参考にすること。
・稽古の時は自分の課題を持つてくること。課題を意識することで自分の問題点を認識し修正する。

●コロナ禍での稽古
令和二年三月中旬、稽古休止する。六月初め、コロナが小康状態になったので、マスク・手袋を着用し稽古再開する。六月中旬、再びコロナが再流行の兆しが見えたため再度休止する。

坂戸合気会

創設四五年



米ノ井 正(72)
合気道歴54年 七段位

東京商船大学合気道部にて岩切光作師範（現坂戸合気会師範）に師事。JFE商事に勤務。

一九九二年 赴任地のマニラにて「フィリピン合気会」創設に貢献。

二〇〇一年 コロナ禍にて「スリランカ合気会」を創設。本部指導員を招聘した指導や演武会の開催など、両国における合気道普及に尽力。

二〇一一年 「スリランカにおける合気道の普及」により外務大臣表彰を受ける。

●道場指導方針
不断の稽古を通し、合気道の根幹をなす、「争わない心」、「和合の精神」を涵養し、揺るがない「不動の精神」を養成する稽古を心がける。

●コロナ禍での稽古
二〇二〇年三月の緊急事態宣言発令に伴う坂戸市施設の休館により、四カ月ほど稽古を休止。稽古再開にあたり、本部道場の「お知らせ」を確認の上、埼玉県合気道連盟へ団体活動再開連絡を提出。稽古はマスク着用にて、換気・消毒・三密回避に留意し、入身・転換や体捌き（徒手、木刀・杖）などを主に、接触を少なくした稽古を行う。

二〇二一年一月の緊急事態宣言再発令と坂戸市施設の再休館により、現在は稽古を休止中。

狭山市合気道教室

創設三一年



小林 大蔵(54)
合気道歴28年 四段位

一九九二年 社会人となり三年目、心と身体を鍛えたいとの思いから、合気道修練道場自然館に入会。以後二八年、初代吾妻久朝館長、二代目吾妻正義館長のもと、毎週稽古に励む。

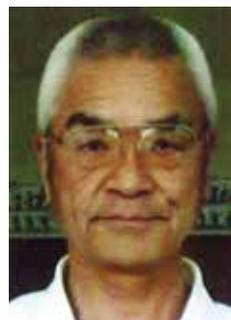
二〇一〇年 狭山市合気道教室を前代表大平四段よりバトンを受け指導を始める。

●道場指導方針
合気道は試合形式をとらない稽古法によって、互いに切磋琢磨するという特徴があり、そこから相手への労りや思いやりの気持ちをも育んで行くこと。

●コロナ禍での稽古
二〇二一年二月現在、狭山市総合体育館が使用できず、稽古は中断しています。昨年未までは、マスクを着用のうえ、稽古前後にはアルコール消毒を手だけでなく、清掃時に柔道場畳にも行っていきます。稽古自体は杖を飛び越えての前受け身や開祖の道歌を皆で唱えるなど接触稽古を抑えて実施しています。昨年末には自然館吾妻館長のもと、一〇数名の子供達が日頃の稽古の成果を発揮し、昇級審査を受審、それぞれ昇級を果たしました。

J1合気会

創設一五年



鍋島 信也(81)
合気道歴17年 四段位

二〇〇四年 六五才で合気道を始める。
二〇〇六年 J1合気会を山崎博司氏と共同

で設立、実践合気道を主眼とした指導を始める。

二〇一一年 四段を取得。

●道場指導方針
実践合気道を主眼とし

・将来、国内外に羽ばたく若人が日本人として誇りある武道を身につける。

・女性や子供は合気道の技を身につけ防犯とメタボの解消に役立てる。

・壮年者はいつまでも若々しく足腰と脳の活性化を図る。

・合気道の稽古を通して親子、兄弟、友人とのスキンシップをはかり、よい家族、友人関係を作る。

●コロナ禍での稽古

国や県の方針に従い稽古は中止しています。各自自宅でエア合気道が出来る人はするように伝えていきます。

志念会

創設二八年



関根 進緑(53)
合気道歴35年 六段位

一九八六年 故飯村郁男師範(合気会本部師範)の指導の下、修行を始める。

志念会を設立。

一九九三年 城南合気会の師範代となる。
二〇〇五年 現在は、知心流古流刀法を学び、体術と剣術の術理を探求している。

●道場指導方針

術理の研究、心身の鍛錬に励み、呼吸を意識し、力まず、軀を繋げ、自然な動きを目指し、正しい形の合気道を伝承する。

●コロナ禍での稽古

昨年の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言中は、週二回のペースでリモート稽古会を開催しました。主に基本の足捌き動作の実技を行い、イラストなどを使って、呼吸と重心を意識することの大切さを説明した稽古会としました。緊急事態宣言解除後の八月からは、非接触の稽古から再開して、一〇月以降には通常稽古を行いました。現在、合気道の稽古(リモート稽古会を含む)は、行っていません。

白岡合気会

創設一五年



櫻井 建夫(58)
合気道歴37年 六段位

一九八四年 久喜合気道同好会入会。
二〇〇八年 前大宮道場長市塚勇師範が白岡合気会の指導を担当。その補助として稽古に参加。

二〇一四年 公益財団法人合気会より六段位授与。前合気道大宮道場の市塚師範が逝去された後、白岡合気会の指導を担当。

二〇二〇年 久喜合気道同好会の会長に就任、現在に至る。

●道場指導方針
「相手とぶつからないように体を捌く」「受けを取るにも主体性を持って動く」「丹田を中心に求心的に動く」など、合気道の技の稽古を通じて、人間の生き方を考えながら日々の稽古を行う。

●コロナ禍での稽古

コロナ禍においても毎週土・日曜日の早朝より稽古を行っています。土曜日は二回、日曜日は三回と稽古回数を分け、一回の稽古参加人数を一〇名以下にし、マスク着用、技ごとに手指消毒を行いながらの稽古となります。不便なところもありますが、丁寧にゆっくりと行えるため、合気道の一つ一つの技の動きや相手との結びを確認しながら稽古ができています。

新郷合気会

創設一九年



大久保 章(63)
合気道歴38年 六段位

一九八三年 川口市主催の「合気道教室」に参加し、合気道を始める。

故藤田昌武師範(本部道場)、島田道男師範(川口婦人合気会)、川口芝合気会、新郷合気会)に師事。

二〇〇二年 新郷合気会(会長遠藤美津子)の設立に尽力。
二〇一三年 新郷合気会の師範となり現在に至る。

●道場指導方針
当会では、基本に重きを置いて稽古していきます。また、徒手のみならず、剣や杖の型や基本動作も繰り返し行っています。基本技に加え、応用技や多人数掛け・武器技なども稽古し、基本を大切にしながらも、幅広い技法を身につけることを目標としています。

●コロナ禍での稽古

令和二年三月、道場(川口市立榛松中学校の武道館)の使用が禁止となりました。令和二年七月、非接触型の稽古を開始しました。令和二年八月、相対での稽古を開始しました。令和二年九月末、昇級審査を実施しました。令和二年一〇月以降、従来の通常稽古を継続しています。
※感染防止対策として、(公財)合気会及び川口市の指針に則り、マスク着用・稽古前の検温・手指の消毒・道場内の消毒等を徹底したうえで稽古を行っています。

新所沢合気道同好会

創設三四年



山上 三一(89)
合気道歴36年 四段位

一九八五年 新所沢地区で、小さな事件があり自治会の会長会議で相談し、合気道を普及したいということになる。

一九八七年 私の畏友・針すなお八段に毎週日曜日に稽古を依頼。

一九九〇年 市民体育館柔道場で稽古を開始。

一九九三年 新設の市民武道館で稽古が始まり現在に至る。一方、指導は針師範の下で進められていますが、御手洗温層七段が、加わり強力な陣営になる。

●道場指導方針

和気…参加するすべての方が心地よく自分を発揮できる。

合気…他者を尊重し、相手の力を存分に発揮させることができる。

烈気…武道の厳しさを根底に持つ。

●コロナ禍での稽古

稽古場所が所沢市民武道館と小学校体育館のため稽古は中止でした。現在は市の定める使用ガイドラインと、合気会が定める稽古ガイドラインを遵守して稽古を行っています。具体的には、稽古前の検温、体調確認、手指の消毒、稽古中も含めマスクの常時着用、稽古後の手指・道場内消毒と速やかな解散等です。稽古再開当初は非接触の稽古、木刀・杖の単独動作から始めて、現在まで感染者発生が無いため、今は相手を変えずに稽古を行い、日曜は二〇名前後の参加です。

草加合気道研究会

創設二三年



中道 一也(73)
合気道歴46年 七段位

一九七五年 かねてより武道に関心があつて、当時居住地近くの道場を訪ねたのが合気道との出会い。

一九八五年 東京都江戸川区総合文化センターでの友好演武大会で本部道場 西尾昭二師範の演武を拝見し、その俊敏な体捌きに感動して以降、先生の稽古に参加、公私に渡って指導をいただく。

一九九八年 西尾先生のお許しを待って草加市に道場を開き現在に至る。

●道場指導方針
ケガをしない、させない稽古を最優先として本部の審査技を基本に「許す武道」としての合気道を探求しています。合気道修業を通じて自己を律し他を思いやり数多く許すことができる社会に有用な人材の育成に努めています。

●コロナ禍での稽古

道場は、公民館や中学校体育館などの公共施設をお借りしています。緊急事態宣言発出中は、施設が使用出来ず稽古はお休みでした。解除後の稽古は、感染防止対策を徹底し、当初はソーシャルディスタンスを取りながら当身、木剣の素振り、型の一人稽古を行っていました。様子を見ながら、受けとの距離が近過ぎない間合いを取った稽古や接触時間を短くした相對稽古を行いました。再び緊急事態宣言が発出され、稽古は再々度のお休みとなっております。

西川口合気道クラブ

創設二七年



松村 義信(77)
合気道歴59年 六段位

一九六二年 明治大学入会して、現在は小林道場総師範をしておられる小林康雄先生が監督の合気道部に入部。夏休み等には本部道場で吉祥丸先生はじめ山口先生、有川先生に指導を受ける。

一九六五年 大塚道場(明道館)で西尾先生、奥村先生の指導を受ける。

一九七〇年 川口合気会が発足してからは藤田先生の指導を受ける。

一九九四年 西川口合気道クラブが発足し指導を行い、現在に至る。

●道場指導方針

基礎、基本の技を中心に個人のレベルに合わせて楽しみながら稽古を行ない、心身の鍛錬及び健康の維持を目的として、合気道を自らの生活の中に生かせるようにする。子供教室では加えて挨拶、礼儀も指導。

●コロナ禍での稽古

感染拡大により三月から稽古を休み、施設(川口市武道館)使用可能となるも感染状況を考慮して八月まで稽古は休みとしました。九月より稽古を再開しましたが、急激な感染拡大を鑑み一二月より再度稽古を休んでおります。九月からの再開に当たっては、手指の消毒、検温を実施し、マスク着用で蜜を避け(一人当たり五、六畳)稽古。九月は完全非接触、一〇月は相手を変えず、十一月から相手を変えて稽古しております。

蓮田合気会

創設二七年



田中嶋 暢久(57)
合気道歴38年 四段位

一九八三年 駒沢大学入学と共に合気道部に入部。大学卒業後も合気道は継続、途中、仕事の関係で、疎遠になる時期もあった。

一九九四年 故・萩谷福太郎先生(指導者兼会長・合気道六段)により、蓮田合気会創設。

二〇〇三年 本部道場指導部の佐々木貞樹師範のご指導を仰ぐ。

二〇二〇年 蓮田合気会の代表。

●道場指導方針

『合気道はお互いに切磋琢磨し合って稽古を積み重ね、心身の鍛錬を図ることを目的とする』の精神を受け、お子さんから年配者まで、幅広い世代の方が、それぞれの年齢に応じた稽古を行っております。稽古を通じて、社会性・コミュニケーション能力の育成にも注力しています。

●コロナ禍での稽古

蓮田市総合体育館バルシーの使用制限の下、思ったような稽古が出来ないのが現状です。ただ道場が使用できる際には、道場の清掃(アルコールを用いた雑巾掛け)から始まり、準備体操、基本的動作、受け身等を行った上、ソーシャルディスタンス確保の見地から、杖を用いた稽古(組み杖、杖取り)を行っています。不完全燃焼ではありますが、今は『基本に立ち返る』の気持ちで、出来ることを行うしかないと考え稽古に臨んでいます。

東松山合気道クラブ

創設五年



木村 晴治(66)
合気道歴51年 七段位

一九七〇年 合気道川越道場入門。
一九七二年 初段 本部道場 栗田師範の審査。
一九七四年 二段 佐々木師範の審査。
一九七八年 三段 佐々木師範の審査。
一九八三年 四段 佐々木師範の審査。
一九八八年 五段 島田師範より推薦。
一九九四年 六段 島田師範より推薦。
一九九五年 川越道場島田師範の推薦により指導者名簿に登録。

二〇二一年 七段 島田師範より推薦。
二〇一六年 東松山合気道クラブ 晴和会を設立し現在に至る。

● 道場指導方針
「合気道を通じ開祖の教えを守り健全なる精神と肉体を養う。」の言葉を重視し一人ひとりの性格、または稽古を通して互いに相手を思いやる心(怪我をしない、させない)と自分に打ち勝つ心(自分から楽しく動く)という精神と肉体を育てる事を目標としています。

● コロナ禍での稽古
新型コロナウイルスが拡大しているため、現在は全員マスクを使用し、直接相手の手に触れないよう手袋や短刀を使用している。相手との間隔に気を配り、ニメートル以上の間をおき、普段よりかかき稽古を多く取り入れている。稽古の出欠席についても、親子さんの判断にお任せしている。

ビタース合気道クラブ

創設一三年



大北 純一(59)
合気道歴41年 六段位

一九八〇年 早稲田大学入学と同時に合気道会に入会し多田宏師範に師事。幹部時は主将、卒業時武段。卒業後、里見八頭会(野本純師範)を中心に稽古を継続。
二〇〇八年 里見八頭会グループ道場としてビタース合気道クラブ立ち上げ。
二〇一二年 六段。稲門合気倶楽部副幹事長。さいたま市合気道連盟理事。

● 道場指導方針
当クラブでは日常生活のなかに取り入れることのできる呼吸法・体捌き・等を重視し、道場での稽古に加えて個人稽古も合わせて上達できるように考えています。

● コロナ禍での稽古
公共施設の閉鎖期間は道場の稽古は中止し、屋外にて個人で実施可能な内容を中心に三密を回避した非接触の稽古を行なっています。又、公共施設の再開時は合気会・各施設のルールに則り、非接触の稽古から段階的に実施しています。参加者はコロナに負けないよう、呼吸法・呼吸操練を真剣に行っています。

日高市合気道同好会

創設二三年



横内 敏幸(78)
合気道歴59年 七段位

一九六二年 大学合気道部に入部し、稽古開始。
一九六七年 勤務先の合気道部に所属。退職後の現在もOB部員を継続。
一九六九年 地域の合気道団体の設立に参画。
一九七四年 地域の合気道団体の設立に参画。
一九九八年 日高市合気道同好会を設立。
二〇二一年 現在は三団体(日高市、東村山市、都庁)に所属し、稽古継続中。

● 道場指導方針
・無理なく安心(怪我をしない、させない。)
・分かりやすく面白い(探求する、工夫する。)
・社会体育(いつからでも、幾つになっても。)
● コロナ禍での稽古
・二〇二〇年七月から稽古再開。個人別のマット敷き。非接触稽古。
・二〇二〇年十一月から現在まで、畳・マットを全面敷き(枚数は減)。非接触稽古。
・稽古時間と参加者小・中・高・大人合同で六〇分間。土・日。一〇人前後。
・感染防止対策として、自宅で検温 チェックシート提出、マスク着用、手指の消毒(入退館時・設営撤収時・稽古中)、物の消毒(畳マット・用具・器材)、換気(窓を常時開放)、距離確保(畳三枚・マット五枚/人)、袴着用を実施しています。

深谷合気会

創設二八年



本橋 幸夫(72)
合気道歴50年 七段位

一九七〇年 二二歳で想錬館道場入門。
一九九三年 合気道普及のため、地元深谷市において合気道教室を開催し、教室の修了者を中心に深谷合気会を結成。
二〇二〇年 公益財団法人合気会より七段を許可される。

● 道場指導方針
深谷合気会での稽古の基本方針は、礼を重んじる中で、誰もが気持ちよく、かつ、末永く稽古を続けられることです。

● コロナ禍での稽古
令和二年度は、コロナ禍で緊急事態宣言が発出されるなど稽古を中止せざるを得ない時期もありましたが、稽古前後の手指の消毒、マスク着用、換気の徹底を行う中、これまでにはできなかった稽古を中心に行っていました。更に、稽古時間を若干短めにする中、稽古内容を充実し、令和二年の一月には、審査会を行えるまでしっかりと稽古を行うことができました。

無為会

創設一五年



壺内 久充(78)
合気道歴60年 七段位

一九六一年 明治大学合気道部入部。小林保雄師範の下で稽古。

一九七〇年 参段、川口合気会で鈴木実師範、藤田昌武師範の下で稽古。

一九八二年 蕨合気道会設立。

二〇〇〇年 六段、西尾昭二師範、田宏師範の下で稽古。

二〇〇六年 無為会設立。

二〇〇八年 千代田区合気会、小林道場、養神館板橋同好会と交流する。

二〇一二年 七段、小林保雄師範に師事。

●道場指導方針

開祖植芝盛平先生の教えに則り、武産合気「和と統一」の理念のもと、稽古に参加した全員が「今日の稽古は楽しかった。参加して良かった」と思えるよう、怪我無く楽しみながら自然に技を身につけられるよう指導。

●コロナ禍での稽古

マスクを着用し濃厚接触を避けて木剣・杖主体の組太刀、組杖、一三の杖、二二の杖、三一の杖を中心に行う。体術は入り身・転換・回転の基本動作・基本技を行い、受け身は呼吸投げ・自由技を中心に行う。従来は体術中心の稽古を行っていたが、感染防止徹底のため武器技を多数取り入れる。初心者には組杖八本、一三の杖、中級者は二二の杖、三一の杖、太刀合わせ、組太刀の稽古を常時行う。総合武道である合気道の剣・杖・体術を網羅するよう努める。

蕨合気道会

創設三六年



田中 安彦(76)
合気道歴36年 七段位

一九八四年 蕨合気道会に入門。西尾昭二先生の指導を受ける。

一九九〇年～二〇〇二年 西尾先生のヨーロッパ、アメリカ、メキシコ等への指導へ随行。日本各地の西尾門下道場の指導にも二〇〇四年まで随行する。

二〇〇六年 蕨合気道会会長に就任し今日に至る。

●道場指導方針

故西尾昭二先生の指導方針である「許す武道」入り身、当て、袂の剣、三つの技術の充分な理解と体得なしに武道としての合気道は表現できない」との理念のもと、体術、剣、杖、居合の錬磨が必要だと考えています。

●コロナ禍での稽古

二〇二〇年一～二月の稽古は感染対策を十分にした上で、稽古相手との接触を避けて行ってきました。三～五月は蕨市教育委員会や市民体育館とも協議の上、稽古を中止しました。六月からは、基本的な感染対策はもちろんのこと道場での人数制限、接触を伴う稽古は三〇分以内、感染状況で四〇分以内等、工夫をして稽古してきました。二〇二一年からは再度中止しています。

合気道における新型コロナウイルス感染症 対応ガイドライン（抜粋）

公益財団法人合気会

■はじめに

本ガイドラインは、感染拡大防止対策を徹底しながら道場・団体活動を継続するためであり、稽古実施にあたって行うべき基本的な新型コロナウイルスの感染拡大防止策や注意点を整理したものです。

各道場・団体の責任者は、本ガイドラインを踏まえ、地域や施設における状況を考慮し適切な感染拡大防止策をとりながら稽古の実施判断を行います。

■感染拡大防止の三つの柱

合気道においては、下記を感染拡大防止の三つの柱として対応を整えて実施。

- ①稽古にあたり適切な感染予防対策の実施。
- ②各自自治体の方針に沿って感染リスクを抑制した段階的な稽古の実施。
- ③稽古参加者の把握と感染者発生時の関係者・機関への適切な連絡。

■稽古実施時における留意事項

- ①施設利用時は稽古中も含め、原則マスクを着用すること。

- ②暑さ等の負荷を考慮し、稽古中は適宜休憩をはさみ、指導者は水分補給やマスクの着脱について指示をすること。

- ③指導者は、施設の換気を徹底するとともに、技ごとに休憩をいれる、稽古中の休憩時間を長めにとるなどして稽古参加者の呼気が激しくならないよう配慮すること。

- ④手指消毒をする際に使用する消毒薬は、可能な限りアルコール（濃度七〇%以上九五%以下のエタノール）を用い、安全に配慮して適切なウイルス対策をとるように行うこと。また、アルコールに過敏な方もいることから、石鹸等を用いた「手洗い」をする時間を稽古前後に設けるなど配慮すること。

- ⑤発熱や軽度であっても咳、味覚、嗅覚障害等の症状があらわれた人は稽古をさせないようにすること。

- ⑥指導者は稽古内容を記録するとともに、個人一青報の取扱いに十分注意しながら稽古参加者の連絡先を把握するように努め、利用施設等から参加者連絡先の提出指示があった場合は、その要請に従うこと。

- ⑦参加者の中に罹患者が発生した場合、直ちに稽古を中止し、保健所等の機関、（公財）合気会および利用施設の責任者に報告すること。

■段階的な稽古内容の目安

緊急事態宣言に伴う各自治体からの要請（以下、各自治体からの要請）内容を稽古実施可否の基準とし、各自治体からの要請が稽古中止を求めらるものでなければ、前項の留意事項および地域や施設における状況を考慮した各道場・団体の責任者の判断に基づいて、下記の段階的な稽古の目安に基づいた稽古を行うことができます。段階を上げる場合は、一定期間（その団体において二週間、同段階で稽古を継続して感染者発生〇を目安とします）を経てから徐々に段階を上げるようお願いいたします。段階の移行については、事前に会員に対して告知を行う等、会員の心情に十分に配慮するよう努めてください。

ただし、緊急事態宣言に伴う各自治体からの要請の如何に関わらず、稽古で利用する各施設等で新型コロナウイルス感染症が発生した場合は、稽古を中止してください。施設が再度利用可能になった場合、要求される感染拡大防止対策のレベルが上がることを考えられるため、施設の方針に沿い、原則、段階一から稽古を再開してください。なお、感染症対策について行政等の対応に変化がみられた場合は、その指示にしたがってください。

■段階的な稽古の判断目安（表）

それぞれ地域における感染状況が異なることから、各自治体の方針に沿っ

段階	緊急事態宣言に伴う各自治体からの「稽古中止」要請	各道場における活動	稽古内容	稽古人数の目安
段階0	発令中	不可	—	—
段階1	地域や施設における状況を考慮した各道場・団体の責任者の判断に基づき段階1から段階4のあいだで稽古を実施することができる	稽古開始 (完全非接触)	単独作業、他者との距離を充分にとった稽古など	1名につき量3枚分のスペース
段階2		相手と組む稽古	段階1の内容を継続しながら相対による稽古を加える。 稽古相手の変更不可	2名につき量6枚分のスペース
段階3		稽古相手の交代可	段階2の稽古内容に加え、稽古相手を交替することもできる。	密集する状態を作らない
段階4		感染対策を徹底した上での通常稽古	通常稽古	密集する状態を減らす

稽古参加者の中に新型コロナウイルスの陽性者の方が確認された際の対応について（令和2年12月24日公開）
http://aikikai.or.jp/pdf/2020/COVID19-correspond_jp.pdf

た柔軟な対応と、施設の規模等や会員数に応じた安全対策ができるよう十分配慮するようお願いいたします。

※稽古実施にあたっては、本ガイドラインの「稽古実施時における留意事項」を遵守してください。

※段階をあげるためには一定期間（その団体において同段階の稽古で二週間感染者発生〇を目安とします）を経て徐々に行ってください。

※段階の移行については、事前に会員に対して告知を行う等、会員の心情に十分に配慮するよう努めてください。

※マスクの着用については医療用N95のマスクは酸素不足などが懸念されているので、避けるようにしてください。

■最後に

罹患は誰にでもあり得ることです。罹患をした本人や家族を差別することとは、決して許されることではありません。道場内で罹患者が出てしまった場合、差別や退会を求めるようなことをしないようにしてください。また、現在、家庭内感染もひろがっていると言われております。新型コロナウイルスのリスク許容度は人それぞれで不安に思う度合いも人それぞれです。ですから、会員の方には家族の同意を得て稽古に参加するよう促して頂きますようお願い致します。

彩のなでしこ

N A D E S H I K O



合気道と私

合気道明心会 鳥海陽子

私が合気道と出会ったのは10年前。合気道を始めたばかりの友人から話を聞いたことがきっかけです。それまで全く合気道に触れた事が無かったので、自分から攻撃をしない武道だと聞いて驚き、とても魅力を感じました。当時幼稚園児の息子に何か武道を習わせたいと思っていたこともあり、道場に見学に行きました。息子と主人の2人が習い私は付き添いだけのつもりのはずが、自分もやりたくなってしまい家族全員で入会しました。

初めは何をやっているのか全く分からず、ロボットの様だったと思います。筋肉痛に苦しみ、受け身が上手に出来ず両肩に痣が出来て辛かったですが、技の形を覚えてきた頃から稽古が楽しくなりました。稽古を重ねるほど出来ることが増えていき、それが喜びとなりました。先生や先輩方には本当に丁寧に熱心にご指導いただきました。初めての審査では物凄く緊張したことを覚えています。合格をい

ただくとそれが励みとなりました。

級が上がるにつれ合気道の奥深さを知るようになり、自分の不甲斐無さを自覚するようになっていきました。稽古をする度に課題が見つかり反省し、でもやはり楽しくて稽古に通うという毎日でしたが、いつしか合気道は私の精神の支えとなっていました。私よりも熱心に稽古をしていた主人は4年前に他界してしまいましたが、主人の闘病中も亡くなってからも、私はずっと合気道に支えられています。言葉にするのが難しいのですが、奥深く終わりのない稽古があることは、私にとって揺るぎない安心感をもたらしてくれます。合気道が続けてこられたことに本当に感謝しています。

これからも高校生になった息子と共に稽古を続け、さらに成長できるよう頑張ります。

※このコーナーでは県内の女性合気道家をご紹介します。
自薦・他薦を問いませんので各道場よりのご応募をお待ちしております。

「彩の合気」への 投稿をお待ち しています。

- 表紙写真／写真1点あたり5MB以上のデータ
- 道場行事報告／原稿1,000文字、写真2点
- 彩のなでしこ／合気道への想いを原稿800文字、写真1点

※画像はプリント写真もしくは写真1点あたり2MB以上のデータをお願いします。画像解像度が低いと印刷に適應いたしません。(プリント写真はご返却いたします。)

応募は郵送またはメールにて

**登録メールアドレス変更の際は
必ず事務局までご連絡ください。**

連盟情報を伝達する手段としてご登録いただいております加盟団体の登録メールアドレスですが、アドレスに変更が出た場合は速やかにご連絡をお願いいたします。特に下記の2例は、変更の連絡が忘れがちになりますのでご注意ください。

- 登録が携帯アドレスの場合、利用携帯電話会社変更があったとき。
- プロバイダーの変更を行ったとき。

〒350-1319 埼玉県狭山市広瀬 2-38-26
埼玉県合気道連盟事務局 吾妻正義
メールアドレス azuma@sainoaiiki.com